

編集後記

本年の1号, 2号で多数の興味ある sm 癌症例が呈示されたが, 本号で sm 癌の特集が一応終わることになる. その深達度診断の難しさを改めて再認識させられたが, おぼろげながらも, sm 癌の中で深達度診断の難しいグループがどのあたりにありそうかという輪郭は浮かび上がってきたような気がする.

本号では, sm 癌の重要性が, リンパ節転移や予後や組織形態の面から詳細に論じられているが, 同じ sm 癌でも sm への浸潤の量で, かなり予後が異なることや, 同じ IIc 型早期癌でも Ul (-) のものについては, m癌ではリンパ節転移が全くみられないのに, sm 癌では4分の1近くも高率にリンパ節転移がみられるなど, 今後どのような sm 癌の診断により十分な注意を払わなければならないかも知れられている. リンパ節転移の多い sm 癌や予後の良くない sm 癌だけをもっと多く集めてその形態を分析する必要があるだろうし, sm 癌という森林地帯を空から眺めて区分けするためには, もう少し足を踏み入れて何度か探索する部分が残されているように思われる.

<西 沢 護>

<編 集> 早期胃癌研究会